

師走を迎え、平成二十三年もあと一カ月
足らずで終わろうとしています。東日本大
震災という未曾有の大災害をはじめ、様々
な困難に見舞われた一年でもありました。
しかしどんな困難な状況が起ころうとも、
日々仕事や生活をしている以上、私たちは
常に前進していかねばならないのです。

倫理法人会の目的の第一義は「経営者の
自己革新をはかる」です。前進するという
ことは、常に自分自身が変わり続けるとい
うことでもあります。変わるためには、た
だ思っているだけではどうにもなりません。
実践という道を避けて通ることはできない
のです。

倫理研究所の創立者・丸山敏雄の遺した
言葉に次のようなものがあります。

「新しい倫理の実践は、一にすなおの一本
路を前進して、二にことに内の小我をすて、
己以外の偉大者につく道ゆきである」

「実践と離れた理論はない。実践して初め
て倫理であり、頭に浮かんだだけならば、
それは実行を伴わない雑念と選ぶところが
ない。ここに倫理は、実践において完成す
る。実践なき倫理はない」

「進むことが、そのまま倫理の実践である。
実践とは、『ふむこと』『ふむ』とは、新し
く践む（ふむ）ことだ。一度ふんだことは、
もう践むのではない」

実践のあるべき姿を説いた言葉ですが、
この一年を振り返ってみて、私たちは果た
してどれだけ新たな実践に踏み込み、かつ
成長することが出来たでしょうか。



絵・わたなべじゅんじ

けじめのある生活で 仕事に磨きをかける

「新年に決意したことを今日までやり通し、
自身が納得すると共に周囲からもなんらか
の評価を得られたか」「周囲からのアドバイ
ス、指導されたことを真摯に受け止め、改
善に努めてきたか」「自身が気づき改めよう
と決意したことを徹底して実践してきた
か」などです。

A氏の新年の決意は、「一つひとつの仕事
に熟慮して取り組む」でした。ついつい長
年の習慣で創意工夫を怠り、過去の経験だ
けで事に当たってしまうことが多かったの
です。そのためには早めに段取りし、いつ
たん構想が決まってもあらゆる角度から検
証していこうと思っただけですが、現実と思
うようにいきません。

生来ののんびりするクセがいつの間にか
顔を出し、「まだ時間がある。大丈夫」と思
っているうちに期限が迫り、結局間に合わ
せの仕事になってしまいました。次は何と
かしようと思いつつも、また同じことの
繰り返しを重ねてしまうのです。間もなく
一年が終わろうとする今になって悔やんで
みても、もうどうにもなりません。

A氏のようなことを繰り返ししていたなら
ば、仕事の内容充実は図れないばかりでな
く、自身の成長・前進は望むべくもありま
せん。来年は辰年。「昇竜のごとき」とある
ように、実践に弾みをつけ、飛躍的な自己
の成長を遂げていきたいものです。

そのためにも、今年一年の自身の行動を
冷静かつ客観的に見詰め直す「充実の師走」
としてまいります。